

2020 年度事業 進捗報告書（資金分配団体）

- 提出日 : 2022年 11月 16日
- 事業名 : コレクティブインパクトを通じた地域課題解決事業
- 資金分配団体 : 一般財団法人社会変革推進財団

① 実績値

【資金支援】

アウトプット	指標	目標値 **	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗 状況 *
各地域で重要な社会課題に関する事業を持続化するための、CIG の組成	CIG 数	3	2024 年 2 月	実行団体 3 団体の CIG グループが組成されているもしくは組成されつつある	3
地域経営の視点に基づく、CIG によるビジョンの提示	ビジョン数	3	2024 年 2 月	CIG のビジョンについて継続的に協議されている	3
CIG による持続化支援	対象事業数	-	2024 年 2 月	CIG による支援について初期的な成果が出始めている（空地・空き家活用 SAGA、東の食の会、但馬を結んで育つ会）	3
各地域で重要な社会機能を担う事業を持続化するための、CIG の組成	CIG 数	3	2024 年 2 月	実行団体 3 団体の CIG グループが組成されているもしくは組成されつつある	3

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

**事業計画変更に伴い目標値を変更

【非資金的支援】

アウトプット	指標	目標値**	達成時期	現在の指標の達成状況	進捗状況*
常勤運営専任スタッフを有する CIG 成立と、その活動結果	① 常勤運営専任スタッフを有する CIG 数 ② CIG で取り組む重要社会課題の周辺状況の整理 ③ 社会的インパクト評価レポート	①3 ②3 ③3	① - ③ 2024 年 2 月	① 3 ② 2 ③ 0	2

*進捗状況：1 計画より進んでいる、2 計画どおり進んでいる、3 計画より遅れている、4 その他

**事業計画変更に伴い目標値を変更

② 事業進捗に関する報告

1.事業計画に掲げた短期アウトカムの達成の見込み
2.概ね達成の見込み
2.アウトカムの状況
A：変更項目 <input type="checkbox"/> 変更なし <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの内容 <input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの表現 <input type="checkbox"/> 短期アウトカムの指標 <input type="checkbox"/> アウトカムの目標値
5.新型コロナウイルス感染拡大に対して、事業活動を行う際に工夫した点
特になし

6. 実行団体の進捗に関する報告

- ・東の食の会・・・ステークホルダーの関与や商品化されたプロダクト数は順調に増加。
- ・空家・空地活用サポート SAGA・・・九州初のコミュニティフリッジの開設、登録者数も想定以上。
- ・但馬を結んで育つ会・・・会員数、寄付額、研修実施回数、行政等との協議回数など、主な KPI は順調に達成。
- ・Local Life Design・・・マネジメント体制及び事業計画の見直しを精査中。

③ 広報（※任意）

1. メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）

■ SIIF

2022/3/27

金融財政事業「3年目に突入した「休眠預金」活用の成果と今後への提言」

■（特非）空家・空地活用サポート SAGA

2022/5/15

佐賀新聞「[九州初、「公共冷蔵庫」佐賀市に開設 食料品など24時間提供 ひとり親家庭など支援](#)」

2022/5/14

佐賀テレビ「[時間や人目を気にせず無償で持ち帰り可能なまちの冷蔵庫 「コミュニティフリッジ」九州で初開設](#)」

2022/5/15

西日本新聞「[人目気にせず食品受け取りを ひとり親支援へ佐賀市に拠点 365日24時間無償提供](#)」

2022/05/24

読売新聞「[ひとり親支える公共冷蔵庫 佐賀に九州初開設](#)」

■（特非）但馬を結んで育つ会

2022/05/24

NHK「[但馬地域の医療維持へ山形県の団体と協定 ICT活用など連携](#)」

2022/05/17

読売新聞「先進広域医療 但馬でも」

2022/04/06

山形新聞「医療と福祉充実へ連携」

2022/05/03

神戸新聞「[持続可能な地域医療福祉へ NPO「但馬を結んで育つ会」、山形の先進組織と連携協定](#)」

その他、日本海新聞にて但馬地域の医療福祉連携に関するリレーコラム寄稿中。

2.広報制作物等

- ・レポート作成 [SIIF 休眠預金事業 インパクトレポート](#) 2021年3月発行
- ・イベント実施 「2019・2020年度休眠預金事業およびオルタナティブ事業 支援先合同セッション」 2021年11月実施

3.報告書等

- ・なし

2020 年度事業 中間評価報告書（資金分配団体）

評価実施体制

内部／外部	評価担当分野	氏名	団体・役職
内部	統括	小笠原 由佳	一般財団法人社会変革推進財団 インパクト・オフィサー
内部	全般	友田 景	一般財団法人社会変革推進財団 伴走支援担当

A) 事業のアウトカムの進捗状況の評価

① 短期アウトカムの進捗状況

【資金支援】

アウトカムで捉える変化の主体	指標	目標値	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
実行団体	各地域で重要な社会課題に関する事業/プロジェクト数	8	2024 年 2 月	1 団体を除いて、順調に事業が立ち上がり進捗している。ただ、当初予測していた実行団体が CIG として、地域のハブになり、毛色の異なるいくつかの事業を実施するものではなく、実際には団体の 이슈に応じた事業を実施している。
実行団体	今後も CIG が持続可能となる運営スタッフ/体制の整備と予算確保の数	4	2024 年 2 月	出口戦略として、各団体に応じた規模感に合わせた事務局体制の整備に向けて、取り組みを始めている。

【非資金的支援】

指標	目標状態	達成時期	これまでの活動をとおして把握している変化・改善状況
重要社会課題に関する CIG のビジョンの策定数	4	2024年2月	今後の長期ビジョンの作成に取り組み始めている団体や、団体の理念に即したキャッチコピーをメンバーで作ろうなどの意見も出てきている。
支援終了後も CIG の持続可能な事業/プロジェクト数	4	2024年2月	自主財源の確保だけでなく、 이슈ーに応じた財源確保も戦略的に検討を始めている。
社会的インパクトマネジメントの実施数	4	2024年2月	
(必要な場合) CIG による財務管理能力強化、財務内容改善関連支援	—	2024年2月	
(必要な場合) CIG によるマーケティング関連支援	—	2024年2月	
(必要な場合) CIG による人材関連支援	—	2024年2月	
(必要な場合) CIG による行政との連携支援	—	2024年2月	



② アウトカムの分析「⑧アウトカムの達成度」(※任意)

評価小項目	評価小項目の評価結果	評価結果の考察



事業のアウトカムの進捗評価	評価結果の考察
<p>事業のアウトカムの進捗の程度は、事業終了時には</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を上回っての達成の見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値を達成の見込みがある</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値はおおむね達成できる見込みがある</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は不透明である</p> <p><input type="checkbox"/> 短期アウトカムの目標値の達成は難しい</p> <p>と自己評価する</p>	<p>Local Life Design が事業計画の見直しを行っており、継続が不透明であるが、それ以外の3団体は順調に進捗している。</p>

B) 事業の改善状況の評価

① 事業の実施過程・事業改善に関する評価

評価項目	評価小項目	評価結果	考察
実施状況の適切性	アウトプットは計画どおり産出されているか	適切に実施	Local Life Design を除く3つの実行団体とは、SIFのPOと概ね隔週にて定例会議を開いており、進捗確認や必要な支援など話す場を持っている。

実施をとおした活動の改善、知見の共有	事業の進捗において必要な実施事業の見直しが行われているか	適切に実施	伴走支援する PO の定例会議にて、中間評価についてリーダーから共有されており、各実行団体の進捗も PO の定例会議にて共有されている。
組織基盤強化・環境整備	組織体制・事業体制に変化はあったか	適切に実施	Local Life Design が事業継続の可否も含めた事業計画の見直しを行っているが、重要な局面であることから、リーダー以外にも担当 PO が複数名で業務に当たっており、慎重に議論を重ねている。

② 短期アウトカムの状態の変化・改善に貢献した要因や事例

- 基本的にオンラインにて実行団体とは定例会議を行っているが、他団体との巻き込みなど、重要な局面では現地訪問し、顔を合わせて議論することで、安心感と信頼感を深める伴走支援を行っている。
- また局面に応じて、事務局体制の強化や関係団体のリレーションづくりなど、画一的な支援ではなく、実行団体のニーズや状況、ステージ等に合わせた伴走支援を行っていることが、実行団体の比較的スムーズな事業運営につながっていると考える。

③ 事前評価時には想定していなかった成果

- 当初の事業計画の段階では、コレクティブインパクトとは、スタンフォードソーシャルイノベーションレビューに提唱されているように、まず複数の団体がビジョンを議論し共通の指標を設定するところからスタートを想定していたが、実際には、多くのステークホルダーが集まって議論するよりも、まずリーダーやコアメンバーが行動によって方向性を示し活動を進めていく中で、信頼感が醸成され、フォロワーとなる仲間が集まってくる構造に近い。コレクティブインパクトを生み出すためには、あくまでもリーダーやコアメンバーの行動が重要であり、最初に示すものはビジョンや方向性のみで十分であると感じている。少数のケースを通じてではあるが、実際の活動を通じて、コレクティブインパクト醸成の一つのパターンが明らかになってきたと感じている。



④ 事業計画（資金分配団体）の改善の必要性の確認

- 社会課題のニーズに事業計画の内容は合致している
- 受益者や対象グループのニーズに事業計画の内容は合致している
- 事業計画に記載している活動は、アウトプット⇒アウトカムへのつながりが実際に確認できている
- 残りの期間の資金配分・人員体制・スケジュールは活動を円滑に行えるよう計画されている
- 短期アウトカム指標は、事後評価時に測定し、達成度を評価することが可能な内容になっている



事業の改善状況の評価結果	評価結果の考察
<p>残りの事業期間で、事業が短期アウトカムを達成するために、</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 事業計画は適切に改善されたといえる <input type="checkbox"/> 事業計画を適切に改善する見込みがある 	<p>・事業計画のうち、アウトプット指標と短期アウトカム指標について、事業開始時点の想定と実際の乖離を踏まえて一部修正をした</p>

<input type="checkbox"/> 事業計画の改善について、課題が残っていると自己評価する	
--	--

⑤ 中間評価結果を踏まえて今後注力したいまたは早急に取り組みたい事項をお聞かせください。

Local Life Design の方向付け。 コレクティブインパクトに取り組む事例のパターン分類とその生成過程の可視化。

添付資料

活動の写真（画像データは1枚2MG以下、3～4枚程度）